ニホンジカ被害対策に関する現地検討会を行いました

令和元年１０月９日
広島北部森林管理署

10 月 7 日、鈩原山国有林 820 ろ小班において、ニホンジカ被害対策に関する現地検討会を、広島県庁林業課と共同で行いました。

この現地検討会は、近年、神石高原町内でのニホンジカの個体数の増加、生息域の拡大等により、ニホンジカ対策が喫緊の課題となっていることから、広島北部森林管理署で取り組んでいる防護柵、単木保護を現地にて確認するとともに、広島県内の民有林での今後の取組ついて、意見を交換しました。

現地検討会の様子

現地検討会には、広島県庁、県東部農林水産事務所、県北部農林水産事務所、神石高原町、神石郡森林組合と広島北部森林管理署から 16 名が参加しました。

はじめに、立木を活用した防護柵と、ツリーシェルターによる造林木の単木保護箇所を視察しました。参加者からは、防護柵設置の効果やツリーシェルターの撤去時期などに関する意見がありました。

また、当該箇所では防護柵設置後の下刈を省略する低コスト造林にも取り組んでいることから、低コスト造林に関する意見も多数出ました。

参加者からの意見

広島県林業課からは、県内でニホンジカの生息数が増加していること、加えて生息域も年々拡大していることの説明があり、更に民有林造林事業におけるニホンジカ対策についての説明がありました。

今回の現地検討会を通じて、今後ニホンジカの食害が大きな問題となっていくこと、民国連携して効果的なニホンジカ対策に取り組むことの重要性を現地検討会に参加した各機関が共有するとともに、防除から駆除へと、対策を広げていくことについても共有しました。

広島北部森林管理署では、今回の現地検討会で出された様々な意見を踏まえ、引き続き、ニホンジカ対策について、民国連携により取り組んでいきます。

立木を利用して設置した防護柵